

生徒の表現力を高め、視野拡大をはかる取り組み

小林市立西小林中学校
教諭 田尻洋貴

○ はじめに

本校は、小林市の北西部に位置し、韓国岳（標高1700m）、新燃岳（標高1421m）、夷守岳（標高1344m）、及び九州山地や霧島の山々に囲まれた自然豊かな環境に位置している。全校生徒は79名で、明るく素直である。

令和元年度から、2年間のNIE実践指定校の指定を受け、新聞を読む機会を増やしたり、新聞記事を読んだ感想を考えたりするなどの活動を通して、新聞に親しみをもたせている。語いを増やし表現力を高め、視野を広げていくことを目的とした。

1 NIEの具体的な取組

(1) NIEコーナーの設置

① 目的

- 全校生徒が使いやすい場所に新聞を置き、生徒の新聞への関心を高める。
- 新聞を活用した活動に積極的に参加しようとする意欲を高める。

② 内容

学校の玄関奥にあるフロアにNIEコーナーを設け、宮崎日日新聞、読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、日本経済新聞の5紙を閲覧できる新聞掛けを設置した。また生徒が新聞を広げて読めるよう長机も設置した。新聞掛けに新聞をかける作業や新聞保管ボックスへの整理は、新聞社ごとに担当の生徒が係活動の一環として行っている。

【玄関口 NIE コーナー】



(2) 1分間スピーチの実施

① 目的

- 新聞を読んで、記事の要約、記事を選択した理由、自分の意見の順で書かせることで、社会で起こっていることに興味をもち、その社会的事象への自分の意見や考えをまとめる力を高める。
- 他人の前で自分の意見を自分の言葉で発表することで、発表する力や相手にわかりやすく説明するなどの表現力を高める。

② 内容

1年生から3年生の各学級で使用する新聞を決め、新聞記事の要約や感想などをまとめ、帰りの会で発表する1分間スピーチ活動を行った。記事の選択については当初は生徒の自主性に任せたが、選ぶ題材に偏りがみられたため、新聞記事の分野を各学年で指定して取り組ませるよう改善を図った。

【6月から7月の担当新聞と記事分野の例】

月	新聞社	1年	2年	3年
6月	朝日 毎日 宮日	宮日 社会、総合 スーパーワイド	毎日 国際面、総合面	朝日 国際面、総合面
7月	読売 日経	読売 国際面、総合面	読売 スポーツ 総合面	日経 国際社会政治

ア 具体的な流れは次の通りである。

- ①担当生徒が新聞コーナーから最近の1週間の新聞を教室にもっていく。
- ②自宅に持ち帰り、新聞を読む。
- ③中心的事実や大事だと思う箇所に線を引いた関心のある記事を切り取り用紙に貼る。
- ④記事の要約、記事を選択した理由をまとめる。
- ⑤担任教師に発表の仕方を点検してもらう（内容の把握、発表態度の指導）。
- ⑥帰りの会で発表する。
- ⑦発表者の発表に対して次のスピーチ担当生徒がコメントをする。1分間スピーチファイルを作り、学級保管し、誰でも見られるようにする。

イ 実施するにあたって次のことに留意した。

- (ア) 発表した生徒に対してのコメントする際は、どんなところがよかったのか根拠を明確に述べる。
- (イ) 教師も生徒の発表について、良かったところを伝え、次の発表の機会や他の発表者の意欲につながるように支援する。

【新聞スピーチの様子】



【感想を述べている様子】



(3) 新聞コラムの視写活動

① 目的

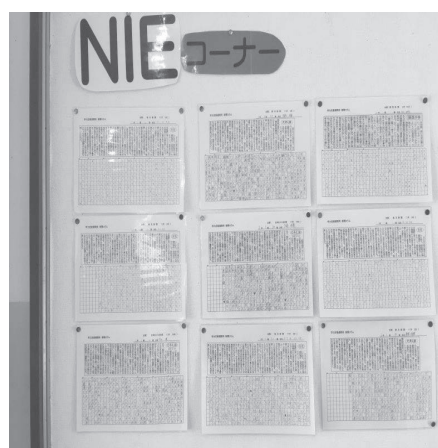
- 新聞のコラムを書き写すことで、正しい日本語の表記の仕方や文章の書き方の基本に慣れる。
- 新聞のコラムを読むことで、内容を読み取る力と、時事問題への関心を高める。

② 内容

1年生と2年生の朝自習の時間を利用して新聞のコラムを書き写す活動を月に1週間程度行った。具体的方法は次の通りである。

- ア 教師が新聞コラムの中から記事を選定し書き方の見本を作成しておく。
- イ 見本をもとに生徒同士で相互に丸付けをする。（文章の書き方や、漢字の誤字脱字を点検）
- ウ 国語科担当に提出し、評価をしてもらい、特に優れている視写をNIEコーナーに掲示する。

【視写の掲示の様子】



(4) 教育連載への投稿

① 目的

- 新聞記事を読んで、記事を読み取る力を高める。
- 新聞記事から自分の意見や考えをまとめる力を高める。
- 新聞に掲載されることを通して、取組に対する意欲を高める。

② 内容

宮崎日日新聞社から「14歳の君へ わたしたちの授業」として毎月記事が送られてくる。その記事の感想を130字程度で書く活動を学年ごとに輪番制で取り組ませた。

【教育連載の投稿担当】

	4月	5月	6月	7月	9月	10月
担当学年	3年	2年	1年	3年	2年	1年
提出(予定)	4月22日	5月22日	6月19日	7月16日	9月18日	10月23日

	11月	12月	1月	2月	3月
担当学年	3年	2年	1年	2年	1年
提出(予定)	11月20日	12月18日	1月22日	2月19日	3月19日

(5) 職員が関心のある新聞記事の掲示

① 目的

- 生徒が新聞記事を読みたいという意欲をさらに高め、新聞記事の内容が難しいと感じている生徒にも気軽に新聞記事を読ませ、今現在世の中で起こっている社会的な事象への関心を高める。

② 内容

- 全先生方に2週間に1回輪番で新聞記事の中から注目記事を切り抜き、どの生徒にもわかりやすい簡単な感想を添え、記事と感想を掲示する。

具体的な方法は次の通りである。

- ア 新聞記事を教師が過去1週間の中から選ぶ。
- イ 記事を切り取り、所定の用紙に貼り、感想も添えて掲示する。感想はどの生徒にもわかりやすい内容に留意して作成する。
- ウ 1週間の期間を設け、全生徒に読ませ、生活日記に感想を書かせる。

2 教科の授業としての取組

ア 社会科の授業での活用

【社会科学習指導案 一部抜粋】

第3学年 社会科学習指導案	
1 単元名	現代の民主政治
2 目標	(1) 将来国政に参加する公民として、現実の政治への関心をもつとともに、積極的に関わろうとする。(関心・意欲・態度)

- (2) 選挙に関する資料を適切に読み取り、判断し、現在の政治の動向や課題を把握することができる。(思考・判断・表現)
- (3) 最近の選挙に関する話題や各政党の選挙公約などについて、新聞記事を活用して有用な情報を適切に選択し、読み取ったりまとめたりすることができる。(資料活用の技能)
- (4) 多数決の原理や選挙の仕組み、政党や世論の役割などについて理解する。(知識・理解)

授業の展開

○ 本時の指導にあたっては、導入で新聞を使い、参議院議員選挙に関する記事の中から政党名や政策を読み取らせることで選挙に対する関心を高めさせたい。次に展開では小選挙区制と大選挙区制などの選挙制度に関する資料からその違いと問題点を読み取らせ、日本の選挙制度の課題を文章に書かせることで表現力の向上を図りたい。また、振り返りでは本時のまとめを自分の言葉でまとめさせることを通して、確実な知識・技能の定着を図り、本校の研究のねらいに迫っていききたい。

学習指導過程

段階	学習内容及び学習活動	指導上の留意点	評価方法	
導入	1 選挙の重要性を確認し、政党名や掲げる政策を新聞から読み取り発表する。 (ペア)	○ 日本の選挙制度に対する関心を高めさせ、新聞を協力して読みとらせ、政党名と主な政策についてまとめさせる。		新聞ワークシート
	2 本時の目標を確認する。			
	日本の選挙制度を理解し、選挙制度の課題について考えよう。			掲示物

3 成果と課題

① 生徒の変容

生徒がNIEコーナーで、新聞を広げて読んでいたり、生徒同士で新聞の話題をしている姿がよく見られるようになった。また授業においても新聞記事から得た国内外の情報を発表することが多くなり、社会事象への生徒の関心が高まった。

② 生徒の感想

- あまりこれまで新聞を読む機会はなかったが、新聞には国際関係などの世界のことも多く掲載してあり、世界に興味を持つきっかけとなった。
- 新聞を読むのは難しいが、文章を読むことや難しい字が読めるようになった。

③ 実践者の感想及び今後の課題

新聞スピーチの活動では、スピーチ活動を各学級で今後も継続して、取り組んでいきたい。取り上げる記事を各学年の発達段階に応じて、学年ごとにステップアップするように工夫をしていきたい。

これまでより新聞をもっと多くの生徒が読む機会が増えるように、NIEコーナーの工夫や新聞を学級で回覧する仕組みを整えたい。また授業での活用を積極的にしていくために、新聞を使った授業の在り方を紹介し、啓発していきたい。今後も新聞をさらに活用して、生徒の読解力や表現力を向上させるための取組を工夫していきたい。